

12：10～13：20

ランチョンセミナー 本会場 1

『新時代の免疫生化学統合分析装置 Atellica Solution のご紹介』

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 阿南 裕明

シーメンスが新たにご提案する、最新の免疫生化学統合分析装置 Atellica Solution は、生化学分析装置と免疫学分析装置の単純な連結機ではなく、さまざまな最新技術を集結させた最新鋭の次世代分析装置です。トータルコスト最適化、生産性の向上、安定的な稼働、多種多様にわたる測定項目のワークフローの改善、リスクやミスの削減など、これら様々な課題に対し解決できる新たな検査室の構築に貢献いたします。

連絡先：masakazu.kikuchi@siemens-healthineers.com

企業 PR (各 5 分)

デンカ株式会社

栄研化学株式会社

極東製薬工業株式会社

ランチョンセミナー 本会場 2

『新たな外部精度管理サービス Caresphere™ XQC のご紹介』

シスメックス株式会社 仙台支店

弊社では約 47 年間、外部精度管理システム（現 eQAPi）を用いて、臨床検査における精度管理サービスを提供して参りました。

この度、更なるサービス向上を目指し Caresphere™ XQC という名称でアップデートし、リリース致しました。

今回、山形県医学検査学会のランチョンセミナーをお借りしまして進化した特徴、機能、画面等の紹介をさせていただきます。

既にご承知の内容も多いと思いますが、御聴聞の程、お願い致します。

12：10～13：10

ランチョンセミナー 第2会場 1

『変異ヘモグロビンが HbA1c 測定に与える影響と

高分離分析における変異ヘモグロビン検出状況』

アークレイマーケティング株式会社学術推進チーム 柴崎 涼

HPLC 法による HbA1c 検査は、検体中のヘモグロビンの分離パターンをクロマトグラムで表現するが、機器状態や検体の特徴により、クロマトグラムは異常を呈することがある。その原因解析のため、弊社では、高分離 HPLC 法を含む複数の HbA1c 測定法を用いた精査測定（高分離分析）を行っている。測定スピードと分離技術の向上による HPLC 法の普及や本邦における糖尿病人口の増加に伴い、高分離分析の依頼は年々増加している。今回、高分離分析の結果から、クロマトグラムの目視判定結果を基準として、各測定法の結果、異常クロマトグラム発生時に出力される異常値メッセージおよび検出・分離した変異ヘモグロビン種類の傾向について調査を行った結果を報告する。

ランチョンセミナー 第2会場 2

『肺癌パネル測定について』

アボットジャパン合同会社

血清中腫瘍マーカーは経時的に測定できる非侵襲性であり、癌の補助診断として癌の存在スクリーニングや治療の効果判定などに広く利用されている。肺癌の種類は主に腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、小細胞癌があり、肺癌の腫瘍マーカーとして臨床的に用いられるのは、CEA、扁平上皮癌に特異性が高いシフラや SCC 抗原、小細胞癌に特異性が高い Pro GRP や NSE である。本会においては、これら肺癌の腫瘍マーカーおよび今後の展望について概説したい。